

遺跡でみつける木の不思議



イチイガシ

考古学の発掘調査では土器や石器だけでなく、木製品が大量に見つかることがあります。木が腐らずに土の中に残っていたのはなぜ？ 大昔の人は木をどんなふうに使っていたの？ 埋もれていた木にまつわる謎を読み解いてみましょう。



石斧復元品



調査風景



スピーカー：村上 由美子 先生

京都大学総合博物館 研究員 京都大学博士(文学)

日時：平成24年7月14日(土)
10:30 ~ 12:00

場所：京都大学総合博物館 ミュース・ラボ

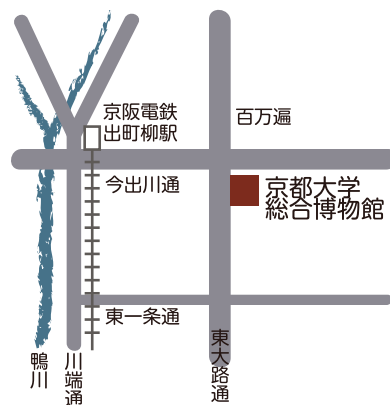
出土した木の樹種を調べてみると、スギやヒノキ、カシの仲間やコナラの仲間、クリなど多様な木が使われたことがわかります。遺跡に暮らした当時の人々は、周りに生えていた木をどのように選び、利用したのでしょうか。



京都大学総合博物館 ネットワーク



- 申し込み：不要です。直接博物館へお越しください。
- 対象：小学生高学年以上(小学生の場合には保護者同伴)
- 参加費：無料です。
ただし、博物館への入館料は必要です。
一般400円/大学生・高校生300円/中学生・小学生200円
※70歳以上の方、身体障がい者の方は無料です。
- 問い合わせ：〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学総合博物館
TEL 075-753-3272
ホームページ <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>



京都バス「百万遍(ひゃくまんべん)」下車徒歩約1分
京阪電鉄「出町柳(でまちやなぎ)」駅下車徒歩約15分
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。